

令和6年度 広島県病害虫発生予察情報 予報第2号 (果樹)

令和6年6月10日発表 (対象期間：令和6年6月11日～7月中旬)

●PCでアクセス

掲載アドレス↓

<https://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/byogaichu/>

●スマホでアクセス

ひろしま病害虫情報

QRコードはこちら →



お問い合わせ先

広島県西部農業技術指導所 植物防疫チーム

〒739-0151 東広島市八本松町原6869

電話：082-420-9662 (直通)

※次回の予報発表は令和6年7月中旬ごろです。

1- (1)

かんきつ病害虫の現況と予報 (概要)

病害虫名	現況	予報	防除上の注意事項
かいよう病			<ul style="list-style-type: none"> ●発生源となる罹病葉、枝は速やかに除去し、ほ場から持ち出しましょう。 ●降雨前の予防散布を徹底しましょう。 ●昨年度発病が見られたほ場や、新葉に発病が多いほ場では、銅剤による防除を早急に行いましょう。
そうか病			<ul style="list-style-type: none"> ●発病した葉や枝を速やかに除去し、ほ場から持ち出します。 ●多発園では、幼果期にも防除を行いましょう。
ミカンハダニ			<ul style="list-style-type: none"> ●梅雨明け後の多発を予防するため、6月中下旬に高度精製マシン油乳剤を散布します。 ●冬季または春季にマシン油乳剤散布を行っていないほ場、前年発生が多かったほ場では発生に注意します。
ヤノネカイガラムシ			<ul style="list-style-type: none"> ●樹幹内部の主枝、側枝にもしっかりと農薬がかかるように散布します。 ●6月中下旬の幼虫発生器に防除を行います。
アブラムシ類			<ul style="list-style-type: none"> ●発生が多い場合は、早期に追加防除を行いましょう。 ●幼木は被害を受けやすいため、注意します。
果樹カメムシ類			<ul style="list-style-type: none"> ●果樹カメムシ類は移動性が高く、飛来は園地間差が大きいいため、夕方または早朝にほ場周辺もふくめて巡回し、飛来が認められたら早急に防除しましょう。 ●加害は長期間に及ぶため、防除実施後も飛来がある場合は、追加の防除を実施します。

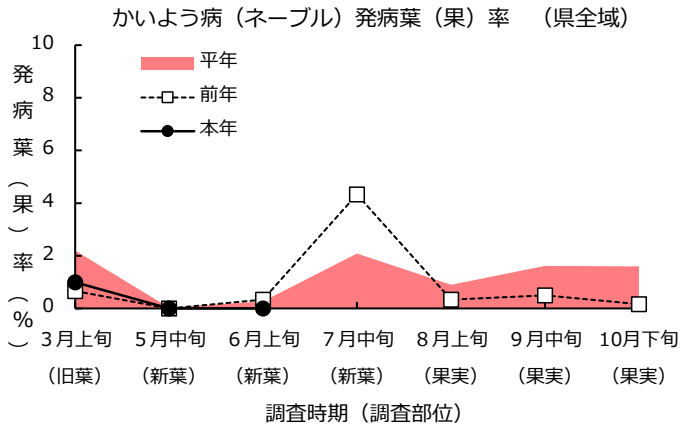
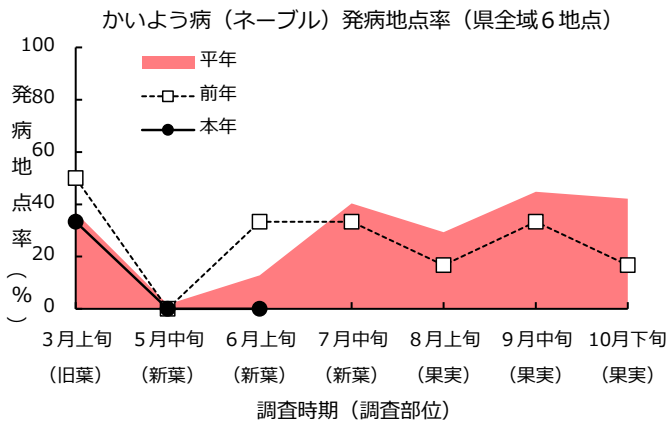
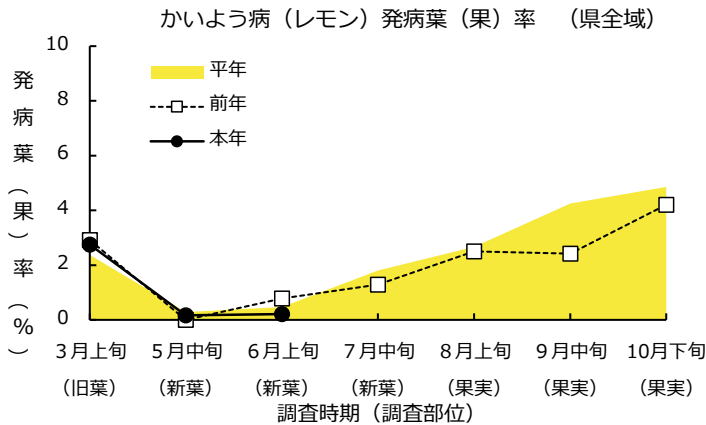
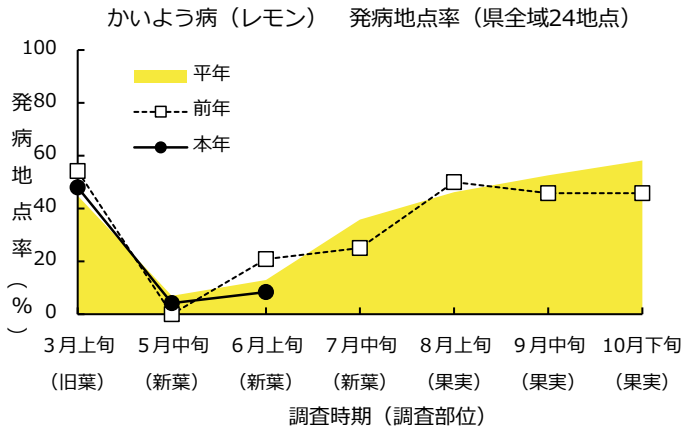
①かいよう病		現況	やや少	予報	並
予報の根拠	<ul style="list-style-type: none"> ●巡回調査では、レモン新葉で発生地点率は8.3% (平年13.0%)、発病葉率は0.21% (平年0.47%) であり、発生地点率、発病葉率ともに平年並の発生でした (±)。 ●巡回調査では、ネーブル新葉での発生はありませんでした。(地点率：平年12.8%、発病葉率：平年0.27%) ●向こう1か月の降水量は平年より多い確率が40%です (+)。 				
(+) : 多発要因 (±) : 平年並 (-) : 少発要因					

【防除上の注意事項】

- 細菌病であり、風雨によって伝染するため、今後の気候には注意しましょう。
- 巡回調査では、罹病した旧葉および新葉が確認されたので、速やかに樹上から除去するとともに、基幹防除を徹底しましょう。
- 高度精製マシン油乳剤との散布間隔は14日以上あけます。
- マンネブ剤、マンゼブ剤とは混用せず、これらの剤との散布間隔は7日以上あけます。
- 無機銅剤 (コサイド剤など) の散布を行う際は、クレフノン (希釈倍数：200倍) を加用します。



【巡回調査データ】



②ミカンハダニ

現況

並

予報

並

予報の根拠

(+) :多発要因
(±) : 平年並
(-) :少発要因

- 巡回調査では、発生地点率は36.0% (平年38.2%)、寄生葉率は5.8% (平年4.2%) で、発生地点率、寄生葉率ともに平年並の発生でした (±)。
- 向こう1か月の気温は平年より高い確率が50% (+)、降水量は平年より多い確率が40%です (-)。



雌成虫
(体長0.5mm程度)



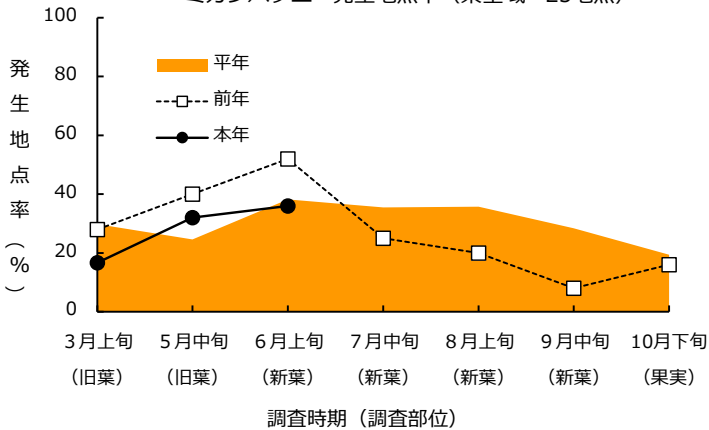
葉のかすり症状

【防除上の注意事項】

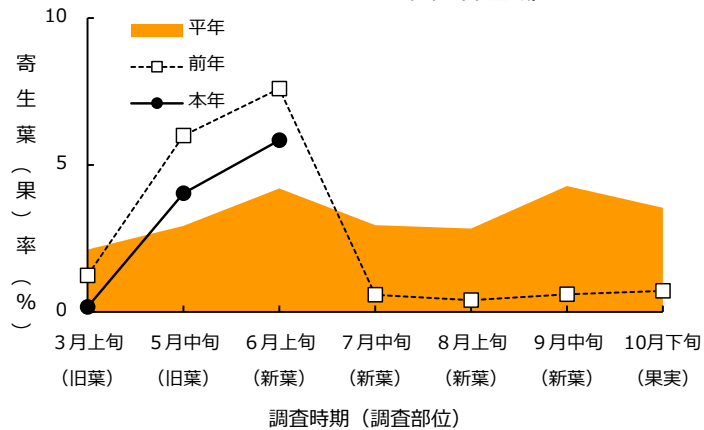
- 梅雨明け後の多発を予防するため、6月中下旬に高度精製マシン油乳剤を散布します。
- 冬季または春季にマシン油乳剤散布を行っていないほ場、前年発生が多かったほ場では発生に注意しましょう。
- マシン油乳剤散布に当たっての注意事項
 - ・7月以降の散布は果実の糖度低下につながるため、必ず6月末までに散布します。
 - ・摘果剤との近接散布により、旧葉が落葉する場合がありますため注意します。
 - ・高温時の散布は薬害を発生しやすいので、朝夕の涼しい時間帯に所定濃度範囲の低濃度で散布します

【巡回調査データ】

ミカンハダニ 発生地点率 (県全域 25地点)



ミカンハダニ 寄生葉率 (県全域)



③アブラムシ類

現況

やや少

予報

並

予報の根拠

- 巡回調査では、発生地点率は52.0%（平年78.2%）、新梢寄生率は2.8%（平年11.6%）で、発生地点率、新梢寄生率ともに平年よりやや少ない発生でした（-）。
- 向こう1か月の気温は平年より高い確率が50%（+）、降水量は平年より高い確率が40%です（+）。

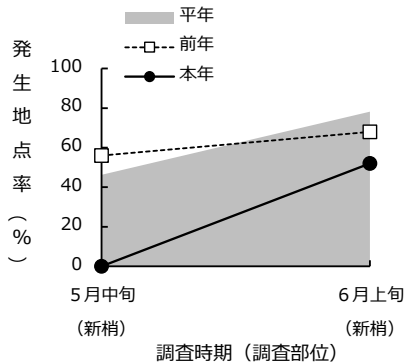
- (+) : 多発要因
- (±) : 平年並
- (-) : 少発要因

【防除上の注意事項】

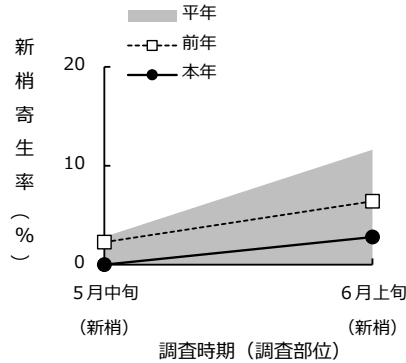
- 発生が多い場合は防除暦に従い、早めに追加防除をしましょう。
- 特に樹冠拡大中の幼木など夏秋梢を利用する場合には、発生に注意しましょう。

【巡回調査データ】

アブラムシ類 発生地点率（県全域25地点）



アブラムシ類 新梢寄生率（県全域25地点）



葉及び新梢への寄生状況

2

果樹全般病害虫について

①果樹カメムシ類（チャバネアオカメムシ）

現況

多

予報

多

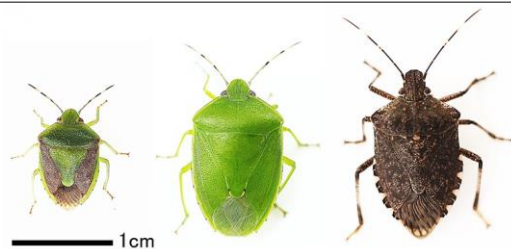
予報の根拠

- 県内におけるチャバネアオカメムシの集合フェロモントラップへの累積誘殺数は、5月第6半旬の時点で、各地で並～多の結果となっています。
- 今後気温の上昇に伴い、飛来がさらに増加する可能性もあるため、ほ場の定期的な見回りをを行い、飛来が認められた場合は速やかに防除を行ってください。
- ※10月末までフェロモントラップ調査データを、ひろしま病害虫情報に公開するので、防除対策の参考にしてください。

- (+) : 多発要因
- (±) : 平年並
- (-) : 少発要因



吸汁痕



左からチャバネアオカメムシ、ツヤアオカメムシ、クサギカメムシ

表1 各調査地点におけるチャバネアオカメムシ累積誘殺数（5月第1～5月第6半旬）

設置地点	チャバネアオカメムシ累積誘殺数（頭）				
	本年	現況	平年 ^{※1}	多発年 ^{※2}	多発年以外 ^{※3}
東広島市安芸津町	44.0	並	55.4	35.4	63.9
福山市神辺町	12.0	並	16.6	28.7	11.4
世羅郡世羅町	112.0	多	45.3	65.5	39.7
庄原市東城町	18.0	やや多	7.1	11.4	5.3
庄原市高野町	48.7	多	15.2	16.7	14.6
尾道市瀬戸田町 ^{※4}	57.7	多	11.9	12.0	11.8
呉市蒲刈町 ^{※4}	63.0	多	7.9	15.8	5.6

※1 各調査地点の平年とは、過去10年の平均を示す

※2 多発年とは、注意報を発表した年（平成26、令和2、4年）の平均値を示す

※3 多発年以外とは、平成26年以降で、平成26、令和2、4年を除いた年の平均値を示す

※4 蒲刈、瀬戸田の2地点については、平成27年からの調査開始のため、過去9年の平均とする。

②チャノキイロアザミウマ成虫発生予測



果梗部のリング状被害

チャノキイロアザミウマ
(体長0.8mm程度)

- チャノキイロアザミウマは、主に防風樹として利用されているイヌマキやサングジュなどが発生源となり、果樹園に飛来します。この虫に果皮を加害されると外観が著しく悪くなります。
- チャノキイロアザミウマは、気温の推移から成虫の発生が多くなる時期（発生ピーク）を予測することが可能です。**防除適期は、発生ピークの7日前からピーク当日です。**

※ 表2を参考に、発生ピーク予測日に合わせた防除を行ってください。

表2 チャノキイロアザミウマ成虫発生ピーク予測日

今後の気温	発生ピーク予測日	
	第2世代	第3世代
平年より高い (+1℃)	6月19日	7月10日
平年並	6月20日	7月12日
平年より低い (-1℃)	6月21日	7月14日

※生口島アメダスデータに基づく

(広島地方気象台6月6日発表、6月8日から7月7日までの天候見通し)

- 平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。
- 向こう1か月の平均気温は高い確率が50%です。降水量も多い確率が40%で、日照時間は平年並の確が40%です。
- 週別の気温は、平年より高い確率が2週目および3～4週目は50%です(図2)。

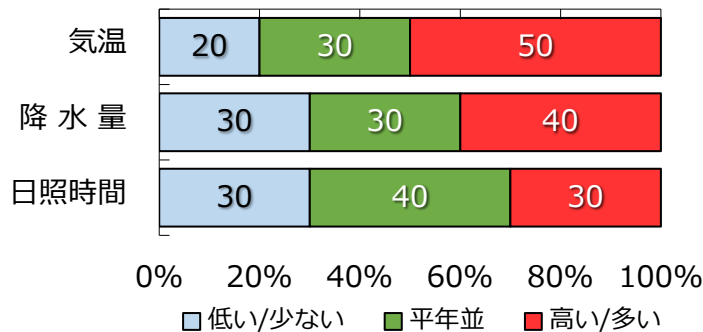


図1 向こう1か月の平均気温・降水量・日照時間の各階級の確率 (%)

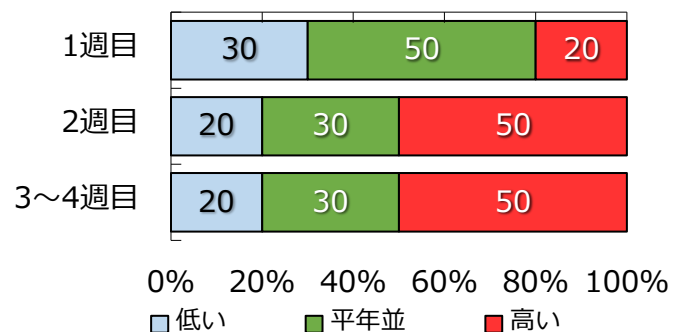


図2 向こう1か月の気温経過の各階級の確率 (%)

- 広島県では、農薬による危害の未然防止を図るため、6月1日から8月31日までの3ヶ月間を農薬危害防止の重点期間と定め、農薬販売者及び農薬使用者に対する関係法令等の周知や農薬の適正販売、適正使用及び保管管理のさらなる周知・徹底を図ることとしています。
- 令和6年度の農薬危害防止講習会の開催場所および日程が決定しました。
- いずれの会場も、午後1時20分～4時に開催いたします。

年 月 日	時 間	場 所
令和6年6月11日(火)	午後1時20分～ 午後4時 ※希望者に対し、講習会終了後、広島県植物防疫協会による広島県農薬適正使用アドバイザーの認定試験が行われます。	呉市中通1-1-2 呉市きんろうプラザ 3F大ホール
令和6年6月18日(火)		福山市東深津町3-2-13 備後地域地場産業振興センター 4F大会議室
令和6年6月25日(火)		三次市十日市南1-2-18 十日市きんさいセンター 1Fホール
令和6年7月2日(火)		広島市中区千田町3-7-47 広島県情報プラザ 2F第一・第二研修室

※受付は、開始30分前からです。福山会場以外、駐車場はありません。

【カンキツの地帯区分について】



西部：竹原市以西の沿岸島しょ部
東部：三原市以东の沿岸島しょ部

【現況・予報の区分について】

「現況」「予報」は、「多、やや多、並、やや少、少」の5階級に区分しています。区分は、原則として過去10年間の同時期の調査結果の数値を発生が多かった順に並べ、相対比較しています。

- 「多」： 1番目(最多年)と同程度以上
- 「やや多」： 2～3番目と同程度
- 「並」： 4～7番目と同程度
- 「やや少」： 8～9番目と同程度
- 「少」： 10番目(最少年)と同程度以下